

(事務局から緑の基本計画の進捗状況報告)

(質疑等の要旨)

- 委員 率直に事務局に聞きたいが、現計画は役に立っているか？
- 事務局 現計画は行政としてページ数も多く、とっつきにくいのかなと感じている。できれば次の計画については、わかりやすい構成・内容にできればと感じている。
- 委員 計画編、行動編の書き方や施策間連携の仕方等は詳しく考えていければと思う。
- 委員 わかりやすいとは、モデル的に核となる地域を特定してモデル展開していくイメージか、掲げる目標を身近なものにしていくイメージか？
- 事務局 エリア的な話もあるが、関わりを持つためにやっていること、やっていただいていることの情報発信、そういったことに力を入れていく。
- 委員 (資料6の11ページ《取り組み3-2》) 豪雨災害に対する整備等、公園の整備面積で成果を図ろうとしているが、面積は足りていたか。
- 事務局 街を災害から守るという意味合いで機能の見直しをしているところであるが、数字的なものは検証できていない。
- 事務局 一部公園では、貯留機能を持たせている公園もある。また、学校の校庭貯留等も整備しようとしており、これらを一体的に総合治水として進めているところである。
- 委員 公園の周りの方の意識について、公園の管理は行政がしてくれると思っている方が多いように感じる。公園の周りの方の考え方を変えていく等の進め方はできないか。
- 委員 質の転換を図ってきていると思うが、公園のリノベーションは進んだか。尼崎市は他市と比べて暗くて囲み型で鬱蒼としている公園が多いように感じる。明るくて関わりやすい環境に少しずつ整備していく必要があるのではないか。
- 事務局 見通しをよくするため、樹木を減らしていく等の整備はできていないが、新しく整備する公園は見通しが良くなるよう、協議しながら進めている。
- 事務局 明るい公園にして欲しいというご意見の一方、樹木が欲しいという意見もあるため、そのバランスを考えながら樹木の整理については実施していこうかと考えている。
- 委員 尼崎市のような都心部において、公園という緑の残っている場所は、生物多様性の重要な場所だと思う。
- 委員 (資料6の8ページ《取り組み3-2》) 市民団体数は横ばいだが、年齢層の変化はどのようになっているか。
- 事務局 どの団体も高齢化が課題となっている。
- 事務局 定年が遅くなっていることで、活動をスタートする時期がずれていることもある。また、ボランティア活動も多岐にわたるため、魅力ある活動を支援する必要があると考えている。
- 事務局 にぎわい空間の創出等、公園をいかに活用していくかという視点で地域の方の参画を促していくことが、今後の課題だと考えている。
- 委員 公園を使っていくという方が増えれば、自然と管理に関わってもらえるかもしれない。また、より実益を感じやすいような、食べ物、子育て等の視点を入れた仕組みができれば良いなと感じた。

- 委員 公園の利用層や利用の仕方が変わっているように感じる。それでも、コミュニティ、防犯等、様々な視点から考えると、公園はいろいろな場面で活用できる。
- 委員 全公園で一律に緩和するのではなく、地域の特性に合わせて、その中で機能分担、楽しさの分担をすることができればと思う。
- 委員 ボランティアの場を設けると、潜在的には参加したいという方が一定数いる。公園の周りの方の意識もそういったところからアプローチすれば変わっていくのではないかと思う。
- 委員 ドッグランができる公園、お年寄りの方が憩える公園等、それぞれの公園が特徴のある公園になったら良いのではないか。
- 委員 公園の新しい機能開発等ができたらもっと楽しくなるのではないか。
- 委員 指定管理者のいない小さな公園の管理は地域のボランティアに任せてはどうか。また、全部が全部同じ公園ではなく、鳥を呼べるような公園等、それぞれ特徴を持たせた公園にすればどうか。
- 委員 アンケートについて、どういう年代の方から回答をもらったのか。公園は幅広い層が利用しているため、そういった方々の満足度を上げることが大事だと思う
- 事務局 回答者の年代の割合としては、半分以上が 60 歳以上の属性になっている。ただ、20 歳～39 歳からも一定数回答はもらっているため、クロス集計での分析はできる。
- 委員 評価のあり方も工夫のしどころがある。満足度といった指標を使うと手応えが難しい。
- 委員 緑に対する満足度について、ここでいう「緑」というものがどういうものを想定しているのか。保全管理すべき緑とはどういうものかを把握すると、満足度がどこからきているか見えてくるかもしれない。
- 事務局 対象としている「緑」は「樹木、草花等の植物に加え公園、広場、農地、樹林地、河川、宅地、企業地等を含めた緑空間を指す」と示している。ただ、緑の概念というものは難しいので、わかりやすくするというのも課題だと考えている。
- 委員 50 歳以上は公園や道路で運動をするということが紐づいているが、40 歳以下は公園をいかに活用していけば良いかという点がぼんやりしている。マスタープランに加えて、アクションプランのようなことを具体的に表すことができれば、より深みのある計画になるかもしれない。
- 委員 アクションプランについて、守る、保全するというアクションもある。作る、使う、守る等、色々なアクションがあり、維持管理という視点も大事なことである。
- 委員 環境活動に参加した学生が、環境、まちづくりに関心をもった進路を選び、その後、尼崎に戻ってきてまたそういった活動に参加していく。学生から大人に成長する過程で尼崎市に貢献しようという意識が高まってくる。つまり、公園、水辺での教育・環境活動がまちを活性化させるという意識を高めている。幼児から大人まで一貫した形で、こういった取組ができる特徴的な公園を目指したい。
- 委員 家庭の緑がだんだん減ってきているように感じる。家庭の方へのアプローチも必要ではないか。

以上